

第四自治会会長によるコラム

多摩川小景

2026年1月号

「みんなが意外と知らない三国志」

年が明けました。いつもは24時間やっているスーパー銭湯で年を越す、つてのが定番の年末年始の過ごし方だったのですが、今年は家族で除夜の鐘をつきに行って、朝になったら福島神社へお参りに行く地元密着のお正月でした、いやいや、コレも良いモンですね♪

年初めって事もあり、柄にもなく手相占いなんてのをやってみました。どうやら私のタイプは小さな事からコツコツと積み上げて行く大器晩成タイプだそうで、似ている手相が、あの三国志で後半大活躍した司馬懿に似ているそうなんですよ！！司馬懿と言えば孔明の北伐を2度も跳ね返し、王朝内のクーデターに成功、後の晋と言う統一国家の礎を築いた人物として知られています。

さて、漫画「横山光輝三国志」、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、およそ千年後に羅貫中と言う人物によって描かれた「お話」を基にしており、史実とはかけ離れている部分も非常に多い事で知られています。そんな三国志ですが、実は皆さんが知ったら驚く様な事実が色々ございまして、今回はその三国志に関する蘊蓄を少しだけ語ってみたいと思います。

①横山光輝三国志の最後60巻だけで29年もの時が流れている。

最後の華の大スター孔明が五丈原で亡くなったのが西暦234年の事、漫画では一応蜀の滅亡まで書かれていますが、それが西暦263年。つまり1巻だけで29年もの歳月が流れている事になります。よくよく考えたら三国時代の始まりが後漢王朝滅亡の220年から呉が滅んだ280年なので、あの漫画で描かれた三国時代はほんの始まりの一部でしかありません。

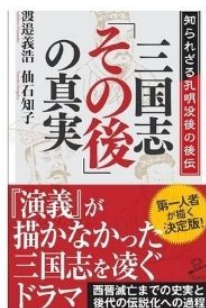
②実は孔明は奇策を使う様な戦はしていなかった。

漫画の中で孔明が誰も思いつかない様な奇策を使って魏の武将を打ち取ったりして行く様は爽快そのものですが、実は孔明はああ言う奇策等を使う策士ではなく、オーソドックスな戦をする人物でした。何より公明の凄かった所は、勝てない戦と分かったらすぐに手を引いた事、今で言う総理大臣でありながら前戦の司令官も兼任した所。子供の頃これを知って孔明にガッカリしたのですが、色々調べて行くと「やはり孔明は凄かったんだなあ」と驚かされました。

③司馬懿はゴリゴリの軍人だった。

漫画の司馬懿と言うと、何となく「政治も出来て戦も出来る魏の孔明」、みたいなイメージがありますが、若い頃の司馬懿は数多の戦場で活躍したガチの軍人でした。そんな彼が得意としたのは、相手の準備が整う前に戦場に駆け付けそのままの勢いで相手を圧倒する電撃作戦。南部での謀反や北部での反乱鎮圧の際も光の様な勢いで戦場に突進し短期決戦で相手に打ち勝っています。

今年一発目は三国志ネタでした。評判が良かったらまた続編もやってみたいと思いますので宜しくお願い致します。



孔明が亡くなった後の三国時代はその後46年続きますが、その46年間について書かれている本って意外とありません。その辺りが気になる方もいらっしゃるのではないのでしょうか？そんな方におススメなのが「三国志その後の真実」(SB新書)。司馬一族がクーデターを起こして以降王朝を牛耳って行く過程や、呉の滅亡の遠因と成る皇帝孫権の後継者問題、三国時代を終焉に導いた晋王朝が、その後数百年の大混乱時代のきっかけを作ってしまう「八王の乱」等、漫画には描かれていなかった「その後」の歴史を簡潔に分かりやすく書いてあります。